

「欲求五段階説」というものがある。アメリカの心理学者アブラハム・マズローによるものである。

人間の欲求には、最も本能的な生理的欲求から、身の安全を求める安全欲求、人と人とのつながりを求める社会的欲求、周囲からの承認欲求、そして自己実現欲求まで5つの段階があるという考え方である。

自己実現欲求というと、他人のことは顧みず自分の夢や成功、理想を追い求めて実現させていくイメージがあるかもしれない。マズローの考え方の根底にあるのは、他の人と共に喜び、他の人に貢献しながら、自分の本心が満足する生き方を追い求めていくことである。

私たちの本心が満足するのは、物質的豊かさや社会的地位、名誉を手に入れたり、他人からの称賛を浴びたりするときではない。これらは、時が経てば、いつかは失われていくものである。俗世に身を置きながらも、心の奥底に意識を向けていくとき、そこに人間の本質的世界があると気づかされる。

人間は、ときに欲にとらわれることもある。だが、どんな人であったとしても心の奥底には消えることのない「ほんとうに美しいもの」が存在し、その世界に至ってこそ本当の意味での心の満足が得られるのではないか。

多くの日本人は、これまで長い間、安全で食べる物にも事欠かない状態で生活してきた。そういう生活を謳歌しているときに、コロナ禍がやってきて、美しく着飾ったり、必要以上にお金を儲けたりすることよりも、家族など身近な人間同士で幸福感を味わい、その幸福感を周囲に広げていくことの喜びに目覚め始めた人たちが増えてきたように思う。

物質主義では、いまや人の心を満たすことができない時代に入ってきた。情報社会という言い方もされるが、あり余る情報は逆に不幸の要因ともなってしまう。これから求められるのは、そういう意識を超えた「感性の時代」であると言われている。

感性の時代に最も大切なのは、相手の望んでいることや喜び、悲しみに共感できるだけの柔軟で豊かな心である。相手がいま何を必要としているのかを的確につかむ感性の鋭さである。そういう心を持った人たちによって、お互いの気持ちを慮（おもんばか）り共に成長できる社会が生まれるとしたら、どれほど素晴らしいことかわからない。

こういう時代がすぐに訪れるわけではない。しかし、感性をベースとした理想の社会を目指して歩いていくときが既に到来しているのは確かだろう。今のこのコロナ禍にあって、真の心の豊かさを深く考える人々が増えてきているのは、その兆しなのではなかろうか。

感性の時代、感性の鋭さ、豊かな心などの言葉を、そのまま使っても生徒には伝わらないだろう。そこで、私の場合は「思いやり」という言葉を使っている。これは、学校生活に限らず、生徒たちが大人になり社会を支えていく存在になったときのことを考えてのことである。これからの時代のキーワードの一つが「感性」である。